

四旬節第一主日A

マタイ4・1-11

皆さん、 私たちは灰の水曜日から四旬節に入りましたね。四旬節はイエスの十字架に表わされる人間の罪深さを意識する時です。またそれは同時に、キリストの福音に応答する私たちの信仰を具体的な行為を持って示していくという心構えを表すときでもあります。

今日は四旬節の最初の主日です。四旬節において、私たちは特に信仰の中心であるキリストの死と復活の恵みにあずかる準備をしていきます。すでに教会のメンバーである方々は、自分がいただいた洗礼の恵みを思い起こすときとします。洗礼の恵みを思い起こす準備をするときとなるように教会は皆さんに勧め励まします。四旬節の典礼は恵み豊かなものです。四旬節の間私たちは神の言葉を深く味わい人間の罪深さに思いを巡らせながら、典礼をとおしてキリストの死と復活の意味を理解できるように祈りましょう。

今日の福音は、イエスが40日間砂漠で悪魔に誘惑されたことを語っています。この物語はイスラエルの民が犯した過ちをイエスが三度の誘惑を退けられたことと重ねて、その意味を考えることを私たちに示唆しています。

イスラエルの民が、マンナを求めて神に不平をつぶやいたことがありました。悪魔は人々がマンナ（パン）を求めているのだから「石をパンになるように命じてはどうだ」と誘惑します。それに対して「人はパンだけで生きるものではない。」(マタイ4・4)とイエスは悪魔の誘いを退けます。イエスは、人間は「神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と語り、悪魔との妥協を許さず退けました。

次に悪魔はイエスを神殿の屋根につれていき、「神の子なら、ここから飛びおりたらどうだ」と誘惑します。イスラエルの民が砂漠で渇きをおぼえたとき、水が欲しいと神を試したことがありました。神を自分の要求に答えさせるという誘惑です。このときイエスは「あなたの神である主を試してはならない」とその誘惑を退けたのです。

第三の悪魔の誘惑は悪魔を拝むなら、すべてのものをあたえるというものです。神との約束から離れたイスラエルの民は、偶像礼拝の過ちをおかしました。自分たちに都合のいい神の像をつくるという誘惑です。この誘惑に対しても、イエスは、「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ。」と退けました。

試練の中に現れる悪魔からの誘惑は、今のわたしたちにも起こりうることです。イスラエルの民が犯した三つの過ちは、イエス・キリストが悪魔から受けた三つの誘惑と重なります。これらの誘惑をしりぞけることで、イエスこそ私たちの救い主キリストであることを証明することにもなりました。その救い主は、権力によってではなく、十字架の受難、死と復活をもってわたしたちを救いへと招いてくださっているのです。

教会が四旬節の典礼で思い起こしたいのは、受難、死をとおして復活の秘義にあずかる、ということです。

イエス・キリストを信じて洗礼をうけるとは、古い衣を脱ぎ捨て、キリストを着ることともいえるでしょう（ガラテア3. 26-27）。四旬節に入り最初の日曜日である今日は、イエスが洗礼の後、聖霊によって荒れ野に導かれ、誘惑を受けられる聖書箇所を読みます。悪魔から誘惑を受けましたが、それに打ち勝った記事です。

現代社会でも「**試み、試練、誘惑**」は誰もが体験します。すでに洗礼を受けたわたしたちもまた、試練や誘惑の場に生きています。避けることのできない試みの現実が日々わたしたちに訪れてきます。そういう時に私たちは、どんな選択をしたらよいのでしょうか？どんな決断をして歩んだらよいのでしょうか。

試練は避けられない現実ですが、私たちは試練を通して神の約束の地へと導かれている神の民なのです。十字架なくして復活はないことを忘れてはなりません。私たちはキリスト者として十字架をにない、よい決断を持って前に進まなければなりません。

今日のみことばでは、三つの誘惑の物語をもって私たちに黙想することを求めています。当時のキリスト者たちは旧約聖書を通して伝えられた戒め、勧めを思い起こしています。私たちも二千年前のキリスト者と同じように四旬節のめぐみを心に刻んで歩んでいきたいと思えます。

私たちは、四旬節の間、日々の誘惑に神の力に導かれて打ち勝つことができるよう祈りましょう。また、神の言葉を聞くため聖書を読み、黙想することにもっと時間を割くことができるように祈りましょう。心の平和と喜びを取り戻すために神の憐れみを求めて、イエス・キリストに目を向けましょう。

